

第6回 ことう地域チームケア研究会



くすのきセンター

1階 研修室

平成26年1月23日(木)

グループワーク

- 講演を聞いた感想・もっと知りたいこと
- 今、私たちの取り組んでいること

など

- 「施設や在宅で飲み合わせや薬の形状についてわからない時は、どこの薬局に問い合わせてもらってよい。調剤、指導もするので、いつでも相談してください」⇒薬剤師からの言葉。
- 薬剤師の居宅療養管理指導が自己負担500円（ケアプランに位置づけ）で、薬に対する相談以外に介護相談なども対応していただいていることを知った。訪問介護士に対する薬剤に関する質問は困る場合もあるので、ルートを考える必要があるか。

- 胃薬と抗生剤の飲み合わせ。薬局での指導をしてもらえるありがたい。
- ジェネリックと先発品のメリット、デメリットを知らないと説明できない。
- 飲み忘れ薬にどのように対応していくか、薬剤師から医師に対して発信をしていただけるとよい。
- 歯科でもお薬手帳を持ってきてもらえるとう抜歯などの時も参考になるので、持ってきてもらいたい。

- 薬剤師に対して、薬についての質問すぐの即答。いろいろ雑談できた。
- 薬剤師からの困ったこと、わからないことは何でも相談してくださいという言葉。これにつきる。
- クロレラとクロレラ飲料の違い。
- 漢方薬の～蕩についてはお湯で服用すると飲みやすい。
- お茶で薬を飲む人も多い。薄めのお茶(ほうじ茶など)で対応することも可能。

- 調剤中でなかなか対応できないときもあるので、電話をいただいて、FAXに質問を書いてもらえれば、返事をする。相談しやすい薬局に相談してください。
- 歯科では多くの薬は出さないため、院内処方に対応。
- 薬をため込んでいる人もいて、入院時に持っていくと整理してもらえらる。薬局に持っていけば、余ったその薬を処分することも可能。
- 薬とグレープフルーツなどとの飲み合わせについていろいろ聞いた。

- ジェネリック薬品と先発との違いを教えてもらった。
- 3食の中でお昼が飲めていないことが多いという意見。生活リズムの中で昼食が抜ける人もいる。医師には言えないという患者もいるので、仲介して伝えていければよい。(薬局から医師に言うのは難しいという意見も。)
- お薬手帳の複数所持の課題。薬がかぶっていることもあるので、お薬手帳を見せてくださいと伝えていくこと必要。

- 訪問したら服薬できていないという方について、薬剤師さんに相談して、なぜ飲めていないのかをアセスメントしてもらえると助かる(薬剤の形状?嚥下の問題?)。(CM)
- お薬手帳にこの薬を忘れたときはどうしたらいいとかいう一言が書いてあるとよい。
- 複数の病院で処方されている場合、お薬手帳が多数あることになり、そのあたりは課題。ケアマネからも受診に行くときに持っていくことについて啓発していくことが必要。

- 点滴のミキシングは長浜に1か所できるところがある。ただし利用の流れがスムーズでないので検討が必要。
- 麻薬の取り扱いも全店で扱っているが、システム化できていない課題あり。
- 粉碎加算(月120円)かかるなどの新情報！

- 薬剤師に質問し、明確に答えてもらえてよかった。
- 薬剤師の訪問はお試しから開始、介護者も喜んでいる。
- 薬の配達が500円という情報しか分からず、介護者にも500円で配達してくれるという情報しか伝えられていなかったが、配達ではなく、丁寧に指導したり、介護相談にのってもらっていることに感謝。
- 薬剤師に聞きたいことがあれば、メールや電話で相談してくださいという言葉。